

4. トラブルとその対応事例

4-1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

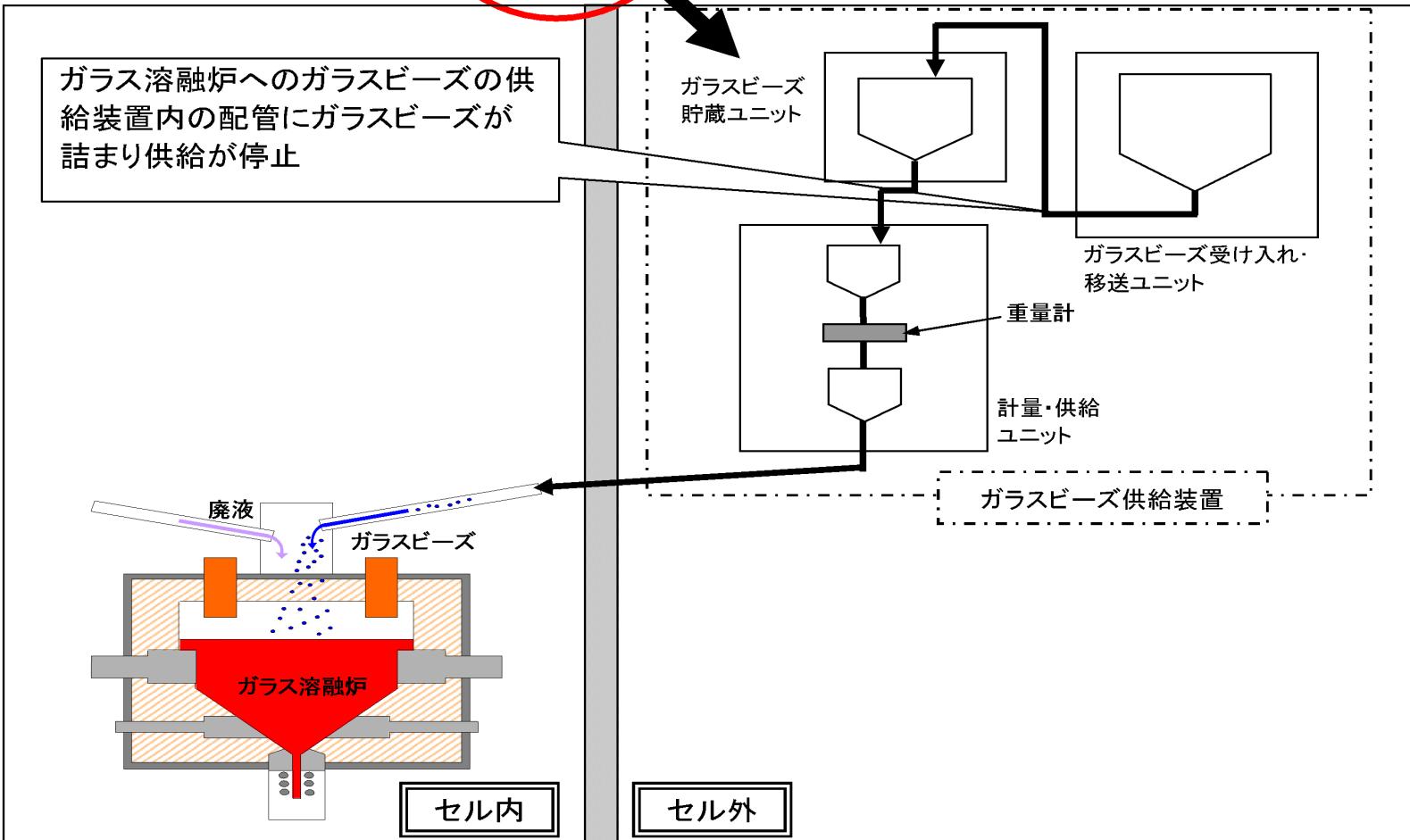
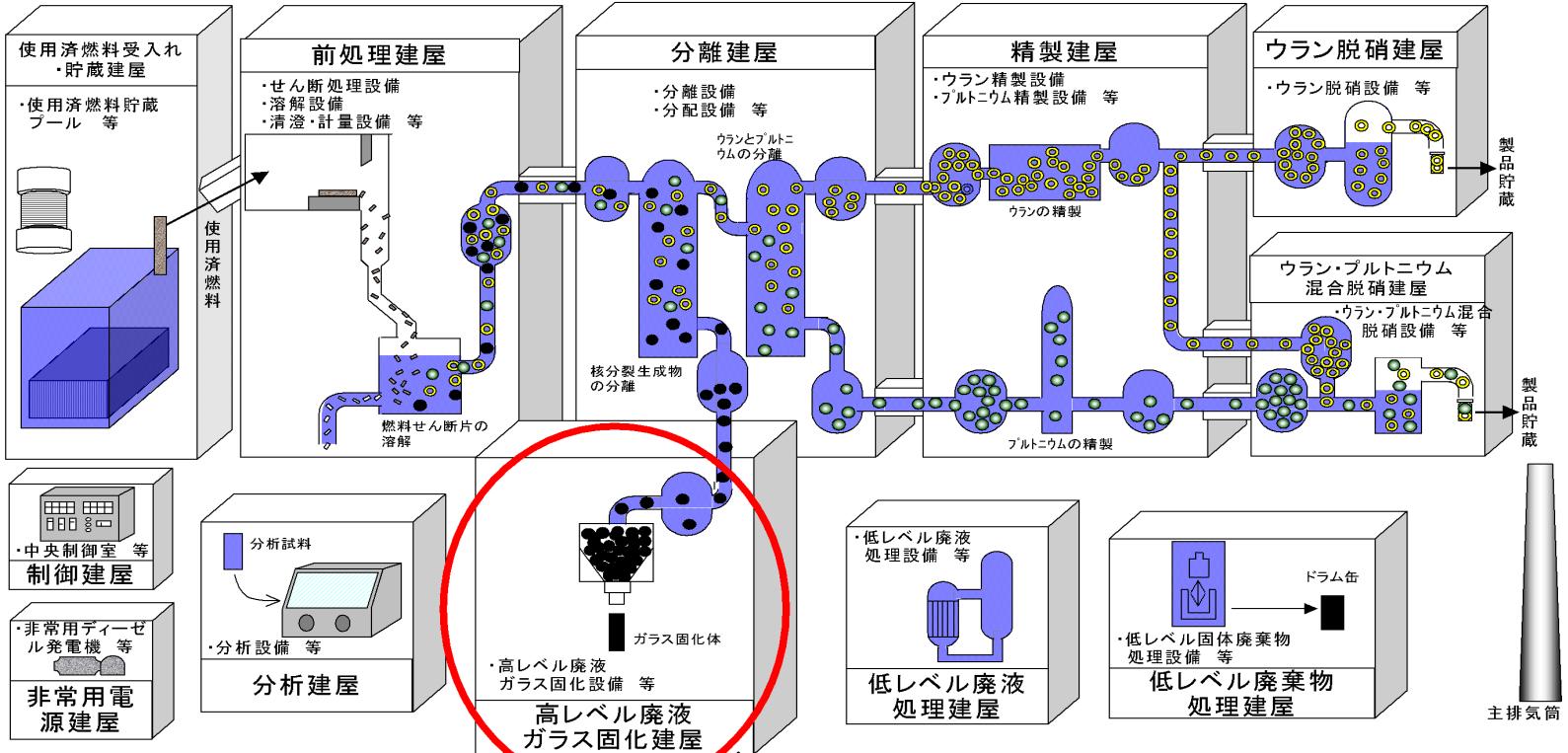
事象分類別 (a. 詰まり・堆積)

1-45. ガラスビーズ供給装置内配管の詰まり

<p>事象の概要</p> <p>(1)発生場所：機器</p> <p>(2)設備の概要</p> <p>(3)発生の状況</p> <p>(4)概要</p> <p>(5)原因</p>	<p>高レベル廃液ガラス固化建屋：ガラスビーズ供給装置</p> <p>高レベル廃液をガラス固化するためガラス溶融炉へガラスビーズを供給する装置。</p> <p>ガラス原料設備の供給運転中</p> <p>ガラス溶融炉へのガラスビーズの供給停止。</p> <p>運転を継続する中で偶発的に発生する、ガラスビーズの流動性によるガラスビーズ供給装置内配管でのガラスビーズの詰まり。</p>												
<p>事象による影響</p> <p>(1)工場外への影響</p> <p>(2)安全性への影響</p> <p>(3)作業員への影響</p> <p>(4)他工程への影響</p>	<p>工場外への影響は生じない。 建屋換気設備が稼働している室内での事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質の漏えいを伴うものではない。</p> <p>安全性への影響は生じない。 ガラス溶融炉へのガラスビーズの供給が停止するが、ガラス溶融炉は保持運転状態を維持することで、これ以上事象の進展はなく、安全性への影響は生じない。</p> <p>作業員への影響は生じない。 ガラスビーズ供給装置内配管詰まりの復旧にあたっては定められた放射線管理計画書に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。</p> <p>他工程への影響は生じない。 ガラスビーズ供給装置内配管詰まりの復旧作業は、ガラス溶融炉を保持運転とした状態で速やかに復旧出来ることから、他工程への影響は生じない。</p>												
<p>対応の概要</p>	<p>1. ガラスビーズ供給装置内配管の詰まり箇所を特定する。</p> <p>2. 定められた手順に従い、ガラスビーズ供給装置内の配管詰まりを除去する。</p> <p>3. 詰まり除去後、異常がないことを確認し、定められた操作手順で運転を再開する。</p>												
<p>公表区分</p>	<p>毎月集約して月 1 回公表（ホームページへ掲載）</p>												
<p>連絡区分*</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">トラブル情報</th> <th colspan="3">運転情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 情報</td> <td>B 情報</td> <td>C 情報</td> <td>ごく軽度な機器故障</td> <td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td> <td>不適合等</td> </tr> </tbody> </table>	トラブル情報			運転情報			A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報										
A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等								

*：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

事象概要



復旧方法
 清掃や調整により復旧

